T I C O

Face to Face

TICOは保健医療・農村開発などの分野で、アフリカ・アジアで支援活動を行っている国際協力NPO法人です。
地球規模の問題に苦しむ人たちの自立支援を共同作業により実施し、そこで学んだ経験と知識を地域の人々とわかち合い、私たち自身のライフスタイルを振り返るとともに、地域の精神文化の昂揚に寄与することを目的としています。

TICO 季刊ニュースレター　No.18　2009年8月号

TICO 15周年特集号

TICOのあゆみ
昨年11月で TICOも15周年を迎えました。TICOの15年間の活動を振り返ってみたいと思います
☞*p.2*

カンボジア事務所だより
4月にカンボジアに赴任した業務調整員による、カンボジアでのエピソードをお届けします
☞*p.5*

平成20年度会計報告
平成20年4月1日より平成21年3月31日までの収支をご報告いたします
☞*p.7*

ザンビア モンボシ調理実習
モンボシ地区で、栄養改善のワークショップを行いましたので、ご報告いたします
☞*p.8*

日本の国際貢献、日本国憲法から考える

TICO 代表　吉田　修

TICOは微力ながらNGOの立場から国際貢献を15年間行ってきました。この15年の意味を日本国憲法の視点から考えてみましょう。

日本国憲法前文には、次のように書かれています。

> われらは、平和を維持し、専制と隷従、圧迫と偏狭を地上から永遠に除去しようと努めている国際社会において、名誉ある地位を占めたいと思う。われらは、全世界の国民が、ひとしく恐怖と欠乏から免れ、平和のうちに生存する権利を有することを確認する。

終戦後、民間の憲法研究者が集まってこの憲法の草案を作り、GHQがそれを非常に高く評価し日本国憲法ができたと言われています。敗戦の焼け野が原で打ちひしがれていたはずの当時の日本人ですが、内に秘めたエネルギー、理想の高さ、志の高さ、純粋さに、心が高鳴るようなすばらしい文章です。この憲法前文、世界に誇れる平和憲法9条、国民の健康で文化的な生活を権利と定めた25条など、日本国憲法を持つ日本に生まれて本当に良かったと思います。

右肩上がりの経済が終焉したバブル崩壊後、経済的にも、外交や環境の面でも世界をリードしてこなかった日本です。世界に誇れるものは減ってきたように感じています。しかし、日本国憲法は心の底から世界に誇れるものです。

世界の現状はこの理想には程遠いものです。まだまだやるべきことがたくさんあります。国連のミレニアム目標の一部です。

2015年までに
＊1日1ドル以下で暮らす人を半減
＊子供の死亡率を1／3に減らす
＊飢えた人を1／2に減らす
＊すべての子供に初等教育を

これまでのところ目標達成は困難です。日本の歴代総理はアフリカへの支援を倍増するとサミットのたびに国際公約してきましたが、現実はむしろ援助額は減少しています。

TICOも日本国憲法の崇高な理念に基づいて今後の活動を推し進めて行こうと決意しています。

日本国憲法前文は次のように締めくくられています。

> 日本国民は、国家の名誉にかけて、全力をあげてこの崇高な理想と目的を達成することを誓う。

よしだ・おさむ：自称兼業農家（外科医）
徳島県出身。アフリカをはじめ世界各国にて国際医療援助活動を実施。現在徳島県山川町のさくら診療所で地域医療を実践しながら、代表としてTICOを運営。写真はザンビア/マサカにあるコミュニティースクールの教室。TICOの支援で改築された。

TICOのあゆみ

1993年（平成5年）11月にTICOの前身である「徳島で国際協力を考える会」は誕生しました。
以来、日本の一地方である徳島で世界の中の日本を考え，それぞれが”地球市民”として自分にできる国際協力を実践することを目的とし，様々な活動をしてきました。そして2002年（平成14年）1月に正式名称をTICOに変更し、2004年（平成16年）9月に特定非営利活動法人（NPO法人）として認定されました。
そして昨年11月には15年目を迎えることができました。TICOがここまで活動を続けてこられたのも、ひとえにみなさまの温かいご支援の賜物と感謝しております。今後ともTICOへの一層のご支援、ご協力賜りますようよろしくお願い申し上げます。

ザンビア・ンゴンベ地区民生改善プロジェクト

1997年から首都ルサカ市に多数存在するコンパウンド（未計画居住地区／貧困地区）の１つであるンゴンベ地区で始まった子どもの栄養改善プロジェクトがきっかけ。TICOのプロジェクトでは一番古いもので、現在も活動が続いています。

1997年　栄養改善教室開始
1998年　洋裁教室▷母親が手に職をつけ収入を得られるように
1999年　ビジネス・マネージメントクラス開始
　　▷ビジネスのノウハウを学ぶ
2000年　ンゴンベコミュニティセンター開設
2001年　食品加工・販売クラス開始
　　保育園（ナーサリースクール）開始
　　▷働き始めた母親を支援するため
2002年　小学校クラスのための教室建設開始
2003年　小学校１・２年クラス開始
2004年　小学校3年生クラス開始
2005年　小学校4年生クラス開始
2006年　小学校5年生クラス開始、教室増設
2007年　小学校6年生クラス開始
2008年　小学校7年生クラス開始
　　▷子どもたちの成長にあわせて学校運営も拡張

現在は、以上の活動に加え、自立運営のためのビジネス活動（バザーへの参加、日用品売店の運営）も行っており、ザンビア人スタッフのみで十分運営ができる組織に成長しました。

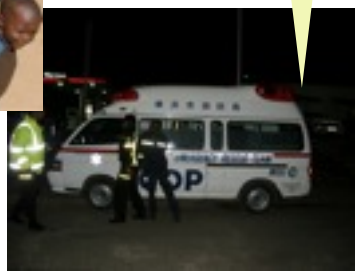
ザンビア・ルサカ市救急隊整備計画

日本では怪我人や急病人が出ると、119番にダイアルし救急車を呼ぶことが出来ますが、ザンビアにはこのシステムがありません。そのため、患者が医療機関にアクセスできず、手遅れで死亡してしまうことがありました。

この状況を改善するため、2002年から救急システムの整備を開始し、2005年には、年間3700件強の搬送を実施するまでに。現在、救急隊の運営母体はTICOから、ローカルNGOへと移行しています。

このプロジェクトには、1998年にルサカ市保健局に整備した診療所から大学病院へ救急患者の搬送を担うシステムの構築の経験が生かされています。

みんな元気いっぱい！
ンゴンベコミュニティースクールの子どもたち



寄贈された救急車も実際に利用されています！

Map of Zambia

ザンビア・干ばつに強い村作りプロジェクト（WAHEパッケージ）

2002年10月から半年間TICOは南部州を中心に飢餓対策緊急援助を行いましたが、そこで得た教訓は「緊急援助の限界」と「飢餓をなくすためには農村に根本的対策が必要」だということでした。

そこから、WAHE：Water（水），Agriculture（農業），Health（健康），Education（教育）の４つの領域にまたがりながら、干ばつに強い農村を作っていこう、農村の暮らしをよくしていこうというコンセプトのもと、このプロジェクトは始まりました。

チボンボ郡チペンビ（2003年～）

農村開発小規模ローン

農民グループに対して彼ら自身が考えだした「小規模起業」を支援するため、事業資金の貸付・研修指導を行っています。上限額は、150万クワチャ（約26,500円）。2009年３月現在までに、養鶏・日用品売店・幼稚園整備・足踏みポンプ・古着の販売などの20事業15グループにローンを締結。返済率は約８割です。

家畜薬浴槽（ディップタンク）リサイクル活用

牛に取って致命的なのはダニが媒介するコリドー病などの病気。TICOでは、ヨーロッパの援助で作られたものの長年使用されていなかった「牛の薬浴槽」を、現地の農業省の獣医の指導のもと、地域の牛所有農家とともに修理して再活用し、家畜の疫病を防ぐ活動をしています。

アグロフォレストリー

ザンビアでは化学肥料の多用により地力が低下する一方で、貧困農家は化学肥料が買えず、農作物の収量が低くなっていました。そこでTICOはチペンビ農業大学と提携し、有用樹木の普及を実施することに。例えば、窒素固定を行う豆科樹木を植えることで土壌の回復を図ることから始めました。また、単一作物偏重回避と食の多様化を推進するため、輪作を進めています。8人のメンバーで始まったこのプロジェクトもいまでは74人になりました。

チボンボ郡モンボシ（2007年～）

コミュニティスクール支援

公立学校は定員オーバーで子どもたちが学校に通えない。そこで地域の人は自分たちでコミュニティスクールを立ち上げます。ただ、教室、トイレ、黒板、机、椅子など学校の設備は不足していることが多いのが現状。TICOは農村地域の教育現場の改善を目指し、コミュニティスクールの支援を行っています。

プライマリーヘルスケアプロジェクト

農村地域の子どもとそのお母さんの健康を守るためのプロジェクトです。①最低限の医療を保障するヘルスポスト（簡易診療所）の建設、②住民保健ボランティア／栄養改善普及員の人材育成、③ヘルスポストとボランティアの連携活動、④乳幼児の栄養改善が活動の柱です。①のヘルスポストは今年3月27日に開所を迎え、現在稼働中です。

チボンボ郡カルブエ（2004年～）

菜園プロジェクト

2004年に使用不能だった井戸を修理。菜園への水供給を可能にし、農民に野菜栽培などのセミナーを開始。また、既存の井戸に太陽光発電ポンプとタンクを設置し水を貯め、簡易灌漑システムを導入することにより、乾期でも耕作を可能に。しかし2007年、ポンプが２台とも故障。今後、いかに菜園事業を有効に継続するか、その方法を模索中です。

その他にも、こんなプロジェクトをザンビアで実施しました

ルサカ市カニヤマ地区コレラ予防対策プロジェクト（2000年7月～2002年6月）
郵貯、国際ボランティア貯金配分金助成事業

チャイナマ医療大学校付属実技研修診療所およびチェルストン診療所巡回チームに対するレントゲン施設基盤整備プロジェクト（簡易レントゲン施設整備計画）
JICA小規模開発パートナー事業
（2001年11月～2002年10月）
ルサカ市東部にあるチェルストン診療所およびチャイナマ診療所に携帯型レントゲン撮影装置を配備するとともに、機材を有効に活用できるよう先方技術者へ使用法などの技術移転を実施。

リサイクルレントゲン装置供与プロジェクト
（2002年3月～2003年2月）
中古レントゲン撮影装置２台をルサカ市にある国立ザンビア大学付属教育病院とチャイナマ病院に供与し、ザンビアの医療サービスレベルの向上を図るプロジェクト。レントゲンによる診断を受けられないケースや、迅速かつ適切な診断がないまま不適切な治療を受け後遺症や障害をもってしまう患者の発生を抑制し、人々の基本的な健康を確保することが目的。

カンボジア

2008年からは、ザンビアで成果を上げてきた救急事業の経験をアジアで生かすため、香川のNPO法人セカンドハンドと共同でプノンペン市内の西部地区で「プノンペン市救急システム構築事業」を開始しています。（詳細は、Face to Face 14号をご覧ください）

命を守るプロジェクト

正式名称は『プノンペン市西部地区低所得者層の人々の命を守るセーフティネット強化事業』。JICA草の根パートナーシップ事業として実施しています。TICOでは、この地域に住む低所得者層の人々が救急事案発生時に適切かつ最低限の救急ケアを受け、適切に転送が行われるように、次の３点における活動を実施しています。

①病院・診療所のための救急対応ガイドラインの作成
②医療従事者に対する基礎救急対応に係る知識と技術向上研修
③コミュニティにおける保健ボランティアを通じた緊急対応ネットワークの強化

救急救助隊整備事業

上記プロジェクトを補強するために行われている事業です。
受け入れる側の緊急対応能力が向上（①,②）しても、患者が医療機関にアクセスできなければ意味がありません。西部地区には人口34万人に対して公的な救急車（民間の救急車は利用料が高い）は１台しかありませんでした。
そこでTICOは患者搬送システムの構築をめざし、救急隊の整備を行っています。

日本国内でも以下の事業を実施してきました

会報の発行

会報“Face to Face”は平成6年(1995)4月に創刊されました。それ以来、休まず発行されつづけています。

創刊号

NPO法人になってからの創刊号

スタディツアー

1997年より実施。TICOの活動を知ってもらうため、ザンビア・カンボジアで年１回程度実施しています。

地球人カレッジ

1997年9月から月１回のペースで徳島で開催されている公開セミナー。TICO設立当初から実施された国際協力の定例勉強会がルーツ。TICOの原点ともいえる。

講師派遣

TICOでは、小・中・高等学校、大学をはじめ、様々な場所に講師を派遣しています。ゲームを使った参加型の楽しいワークショップから、専門的な国際協力講演まで何でもお受けします。お気軽にお問い合わせください。（昨年度の実績は６ページ）

←アフリカの実情を学べる教材

ゆず狩り

1998年より実施。「わらびの会（徳島県美馬市木屋平）」が主催。人手不足や高齢化などで放置されたままになっているユズを収穫し、それを出荷して得た額を、TICOに寄付していただいています。TICOも収穫ボランティアとして毎年参加しています。11月の第２日曜日は、みなさん奮ってご参加下さい。

その他にも、、
チャリティコンサート
チャリティバザー
チャリティマラソン
パネル展
などを実施。

こんなこともやってました

2006年には、ザンビアでのボランティア経験を持つ会員がデザインし、
徳島県特産の阿波和紙に印刷したカレンダーを制作。
1部1000円で販売し、収益金はTICOの活動資金に当てられました。
和紙は山川町にある富士製紙企業組合様から寄付していただきました。

カンボジア事務所便り

新職員、大坪加奈子

カンボジアのエピソードと活動紹介

カンボジアとの出会い

私とカンボジアとの出会いは大学生時代にさかのぼります。友人が所属していたNGOがカンボジアでスポーツ大会を催すということで、アンコールワットが位置するシェムリアップでの事前打ち合わせに同行したことがきっかけでした。友人が仕事をしている間、私の方はもっぱら観光にあけくれ、アンコールワットの遺跡めぐりをし、カンボジアを満喫しました。一方で、地雷による犠牲者、物乞いをする子ども達などのカンボジアが抱える負の遺産に触れ、カンボジアの開発について考える機会でもありました。

それからというもの、カンボジア語を学んだり、ボランティアに参加したり、カンボジア人のクラスメイトと語り合ったり、生活の中でカンボジアとの関わりを感じながら暮らしてきたような気がします。

研究から見えたものー「住民から学ぶこと」

カンボジアに訪れたのを契機として、カンボジアをフィールドに研究を続けました。大学院ではカンボジアのスヴァイリエン州で、寺院を中心とした社会開発活動や相互扶助について研究しました。村人はどのように暮らし、どのように自分たちで問題を克服していくのだろうかと思い、村のアチャー(*)の家にお世話になりながら、村内の全世帯を訪問し、インタビュー調査を行いました。

カンボジアの中でも、最も貧しい州の一つと言われるスヴァイリエン州。住民の大半は農業を営んでいましたが、作付面積が非常に小さく、１ヘクタールを超える世帯はわずか２軒しかありませんでした。灌漑施設が整っておらず、乾季は出稼ぎというパターンがほとんど。生活は決して楽ではないにもかかわらず、大地に根を張って生きる人々の強い印象が残りました。寺院は米銀行の運営や井戸・トイレの建設、葬式組合、コミュニティ保険等のさまざまな活動を行っており、ソーシャル・セーフティネットとして機能していました。それらの活動を支えるのは住民からの寄進。カンボジアの仏教では、善い行いをすることで徳を積み、幸福を得ようとする積徳行の価値観があります。そうして、自分の幸福のために寄進したお金が寺院に集められ、社会財として住民に再配分されるという相互扶助の仕組みが上手く機能していました。

こうした地域での住民による活動がある中で、ＮＧＯなどの外部者である私たちがどのように関わり、共に活動したらいいのか、ということが私の生涯のテーマでもあります。

「住民から学ぶ」という姿勢を忘れてはいけないなと思います。

＊仏教儀礼に関する知識に詳しく、村の長老ともいうべき社会的地位にある者。

スヴァイリエン州のホストファミリーと近隣の人たち。いつもどこからか人がたくさん集まってきます。

TICO カンボジア／低所得者層の人々の命を守るセーフティネット強化事業

現在、私たちが活動を行っているプノンペン市西部地区では、急激な産業発展に伴う労働人口の増加や、市内中心部から移住してきた低所得者層の人々の居住地が拡大しています。彼らが事故や病気、大けが等の緊急の事案に遭遇した場合、「高い治療費を払って民間の診療所へ行く」、「祈祷師の元で伝統的治療を受ける」、「迷信により自分たちで誤った処置を行う」ということが生じていました。

そこで、住民達が事故や病気、大けが等の緊急の事案に遭遇した場合にどうしたらいいのか、保健ボランティアや村長などの「鍵」となる住民を招いて、診療所の利用方法や応急処置の方法、救急車の呼び方についてのワークショップを開催しています。その後、彼らがキーパーソンとして自分たちの村の人々に応急処置を行い、診療所や救急車に関するアドバイスを行うことにより救命につなげるという仕組みです。ワークショップでは、各村の保健ボランティアが集まり、情報をシェアすることで、各事案に対してどのように対応したらいいのかを考えてもらいます。実際に、保健ボランティアが村で起こった事故やケガに対し適切に対処し、救命につながったという成果がでています。また、同時に診療所での基礎救急の対応能力アップ研修やガイドライン作成を行い、人々が適切な救急ケアを受けて、上位レベルの医療機関へ転送されるように支援しています。

農業を営みながら保健ボランティアをしているワタイさん（女性）は、「村の人にアドバイスをしたり、説明したりするのが難しい

けれど、自分の技術で人を助けることができてうれしい。村の発展につながると思う。」とうれしそうに話してくれました。

カンボジアでは、歴史的背景のせいか、地域の中でお互いを信用したり、情報を交換したりするということが難しいようです。そのため、保健ボランティアが診療所に行くようアドバイスしても中々聞いてもらえず、「霊がとりついている」と言って祈祷師の元に行く方が数多くいます。

伝統を完全に否定するのではなく、いかにカンボジアの現実社会と照らし合わせて活動を行うかが課題となっています。時間はかかりますが、「情報を分かち合うこと」、「お互いに協力し合うこと」によって、「自分たちで問題を解決できる」ということを知り、これらを生活の中で活かしながら、最終的に地域の相互扶助の促進につながればと考えています。

国内活動報告／講師派遣事業

4月14日	香川大学	国際協力論Ⅰ　カンボジアの医療事情	12月5日	徳島県立川島中学校	アフリカのエイズの現状と日本
4月17日	四国大学	地球人として生きる	12月18日	熊本大学薬学部	アフリカの現状と対策
5月8日	徳島大学総合科学部	国際協力論Ⅰ　ザンビアの現状	12月19日	徳島県立中央高等学校	アフリカの現状とボランティア
5月8日	吉野川市	医療福祉　こころとからだ	12月21日	徳島県教育委員会	人権と国際協力　体験型ワークショップ
5月16日	日本外国語専門学校	NGOの特徴　運営のための理解	12月23日	鳴門教育大学	それぞれの視点から見た国際協力
5月21日	愛媛大学	国際協力論Ⅰ　NGOの取り組みワークショップ	12月25日	阿南市保健環境部	エイズ～日本とアフリカ～
5月25日	セカンドハンド	TICOの活動	1月17日	四国EPO	国際協力と国内の環境活動
6月10日	徳島大学総合科学部	国際協力論Ⅰ　NGOの取り組みワークショップ	1月21日	鳴門市大麻中学校	国際協力と私たちの生活
6月12日	徳島市津田中学校	私たちの生活と世界	1月23日	鳴門市国際交流協会	環境問題と国際協力
6月20日	徳島大学医学部（医学科）	アフリカの医療の現状１	1月24日	市民アクション2008	ワークショップ「住まう」
6月27日	徳島大学医学部（医学科）	アフリカの医療の現状２	1月25日	徳島県青年海外協力協会	地球市民フェスティバル　In　阿南
7月2日	徳島市津田中学校	ワークショップ　国際協力、教育、私たちの生活	1月28日	鳴門市大麻中学校	平和と暴力・非暴力
7月14日	徳島県立城西高等学校	ものづくりと国際協力１	2月4日	鳴門市大麻中学校	貿易ゲーム
7月15日	徳島県立城西高等学校	ものづくりと国際協力２	2月5日	徳島県薬剤師会	TICOの取り組み
8月12日	徳島県国際交流協会	体験型ワークショップ　環境教育	2月6日	吉野川市森山小学校	異文化理解～異文化ってなんだ？～
8月28日	新しい自立化支援塾	医療・福祉・しごと　まちかど相談会	2月8日	内蒙古ｱｲﾔﾝ教育経済支援協会	国際協力と学生活動
9月10日	徳島市津田中学校	環境と人権　ワークショップ　宇宙ステーション	2月10日	セカンドハンド	ものづくりと貿易、フェアトレード
9月19日	四国青年NGO HOPE	環境と国際協力	2月15日	とくしま県民活動ﾌﾟﾗｻﾞ	NPO自立支援塾　海外の子供たちの現状を知る
9月24日	鳴門市北灘中学校	アフリカの現状　私たちにできること	2月21日	とくしま県民活動ﾌﾟﾗｻﾞ	女性の視点から見た市民活動と成果
10月16日	徳島大学医学部（保健）	途上国の医療の現状	2月22日	市民アクション2008	ワークショップ「動く」
10月16日	徳島大学医学部（保健）	国際協力について	2月25日	吉野川市森山小学校	支援先（アフリカ）のこと
10月23日	徳島大学医学部（保健）	ザンビアにおけるプライマリーヘルスケア事業	3月5日	徳島県立川島高等学校	国際協力と人権
11月7日	徳島市立津田中学校	アフリカの現状について	3月12日	吉野川市	アフリカの問題とTICOの取り組み
11月13日	飯尾敷地小学校	世界の子供たちを知る	3月15日	賀川豊彦記念・鳴門友愛会	海外における医療ボランティアについて
11月27日	JA美馬	TICOの取り組み（環境・農業）	3月19日	徳島県南部県民局	HIV/エイズについて～アフリカと日本～
11月29日	市民アクション2008	ワークショップ「食べる」	3月21日	JICA四国	それいけ！高校生　「国際協力とは」

TICOは昨年度、52件の講師派遣を実施しました。一昨年度は33件でしたので、およそ1.5倍に増加したことになります。
今年度もすでに大学の講義などで国際理解、国際協力に関する講演・ワークショップを行っております。
ご興味、ご関心のある方は、ぜひご相談下さい。

平成20年度　会計報告

収支の状況　平成20年4月1日から平成21年3月31日まで　（単位：円）

収入の部

会費・入会金収入	1,548,500
助成金収入	26,049,686
寄付金収入	16,429,392
雑収入	252,522
収入合計(A)	44,280,100
前期繰越金	2,567,864
総計(B)	46,847,964

当期収支差額(A)-(C)	4,732,632
次期繰越収支差額(B)-(C)	7,300,496

支出の部

海外事業	
ザンビア事業	15,087,938
カンボジア事業	18,805,337
国内事業	
会報・刊行物の発行	141,628
開発教育に関する事業	134,350
管理費	2,899,544
助成金返金	2,462,135
その他	16,536
支出合計(C)	39,530,932

賃借対照表　平成20年3月31日現在　（単位：円）

資産の部

流動資金	
現金預金	7,308,536
流動資産合計	7,308,536
固定資産	
固定資産合計	0
資産合計	7,308,536

負債の部

流動負債	
預かり金	8,040
流動負債合計	8,040
固定負債	
固定負債合計	0
負債合計	8,040

正味財産の部

当期正味財産増加額	4,732,632
正味財産合計	7,300,496
負債及び正味財産合計	7,308,536

NPO法人TICO　第５回通常総会

去る5月12日、通常総会が行われ、昨年度の事業報告と収支報告がありました。その後、今年度の予算が発表され、全会一致で承認されました。また、これまでの理事、吉田修・渡部豪・福士庸二が再任され、新しくTICOのパートナーである、NPO法人セカンドハンドの饗場恭子が理事に就任いたしました。今後とも皆様のご支援を、よろしくお願いいたします。

モンボシで調理実習開催

ザンビア・モンボシ地区での母子栄養改善のためのワークショップ

庄田多江
事務局／ザンビアでの研修にて

住民保健ボランティア、栄養改善普及員の人材育成の一環として、今回栄養学の講義と調理実習のワークショップを行った。今回のワークショップで学んだことをそれぞれ地域の母親に伝え、地元の食材に少し手を加えるだけで栄養改善できるということを理解し実践してもらう、というのが目的。TICOが初めてザンビアで行った事業、栄養改善教室から地域の学校にまで大きく成長した、ルサカ市のンゴンベコミュニティースクールから、副校長先生チョラさん（写真右下中央）が、今回講師として活躍。以前、栄養改善のプロジェクトに携わった日本人スタッフが作成した栄養素の教材（写真左）は、未だに大切に利用されていた。

普段料理もしないような男性が主体となっての調理実習。慎重さが伺える。2日間の日程で、始めは恥ずかしがって、エプロンの代わりにチテンゲ（女性が腰に巻く布）を巻くのを拒んでいた男性陣（写真右上）も、女性の協力的で強力的なサポートにより？２日目には愛らしいエプロン姿に変身（写真右下２枚）。合間に歌や踊りで気晴らしをしながら、陽気に進めていく様子は、ザンビア人らしい。作った料理がおいしいと、笑顔をこぼす参加者たち。チョラさんの腕が立つ。

継続は力なり。今回のワークショップで、参加者がンゴンベの努力と熱意の結果に触発してくれればと願う。

ご支援ありがとうございました

TICOの国際協力活動は、皆様からの寄付金や会費によって支えられています。温かいご支援をお待ちしております。

寄付をいただいた方

藤野秋弘、佃千代子、橋本伸子、吉田益子、唐住洲子、下河真奈美、藤村京子、田淵規子、小野裕次、石橋万里、TICOサポートクラブ、吉田修、㈱帝人ファーマ、今関知良、江橋裕人、山元香代子、岡田佳子、福士美幸、石田亘良・弘子、江藤さゆり、ハヤシカオリ、鹿児島敏治、大矢仁士、さくら診療所カンパ箱、匿名

新たに入会された方

加藤かえで、庄田多江、瀬戸口千佳、萩森健治、岩元晶子、吉田純、菱川瑠美

会員を更新された方

垣原宏治、庄司孝志、須藤榮子、中村靖子、畑和子、原田恵子、井内一志、四宮万代、大瀧知津枝、田所幸枝、尾崎富美子、井形和枝、あきのまりこ、天田大輔、池北國子、石橋万里、大島英子、唐住洲子、田淵元樹、濱田直文、堀田延男、宮本健太、山田絵美、山本ひとみ、新居智次・和世、大西和賀、瀧浩樹、谷泰伸、白石勝美・久代、佐治朝子、古川彩香、中野貴志、ダスキン川島、特定非営利活動法人AMDA、㈱北島コーポレーション、木村恵介、笹井美由紀、佐野正浩、中村晃一、原田栄枝、ヒラオカ薬局、古賀明子、高井美穂、西岡秀朗、庄野真代、峰尾武、町田美佳、匿名

2009年4月1日～2009年6月30日分
順不同、敬称略

TICOへのご寄付の方法

郵便振替　01640-6-37649（加入者名）TICO

銀行振込　**ゆうちょ銀行**
店番169（店名イチロクキュウ店）
口座番号　当座　0037649
受取人名 トクヒ）テイコ

四国銀行　山川支店（店番号344）
普通 0199692
特定非営利活動法人TICO
カナ入力の場合は、トクヒ）テイコ

インターネット　TICOウェブサイトのバナー広告をクリックすると、お買い物代金の一部が寄付されます。

TICOへの入会方法

会員となって資金面からもTICOの活動をサポートしてくださる方を募集しています。会員の方には、TICOニュースレター “Face to Face” を毎号お送りいたします。

年会費　賛助会員　個人　¥12,000
学生　¥6,000
団体　¥15,000
正会員　¥12,000

※通常は賛助会員でのご入会をお願いしています。
総会での議決権を持つ正会員を希望される方は事前にご連絡下さい。

入会ご希望の方は、年会費を郵便振替にてお支払い下さい。郵便局備え付けの振替用紙で、次の口座へお願いいたします。ご住所・ご氏名・お電話番号の他に、Eメールアドレスもお持ちでしたら通信欄にお書き添え下さい。

口座番号 01640-6-37649
加入者名 TICO

TICOニュースレター
Face to Face　第18号
2009年8月発行
発行人：吉田　修
編集：瀬戸口千佳、庄田多江

特定非営利活動法人 TICO 事務局
〒779-3403
徳島県吉野川市山川町前川120-4
電話：090-7786-3193
ファクス：0883-42-2271
メール：info@tico.or.jp
ウェブサイト：www.tico.or.jp